

令和5年度優良PTA神奈川県教育委員会表彰 受賞団体「PTAの取組」

番号	団体名	特色ある取組
1	横浜市立柏尾 <small>かしお</small> 小学校PTA	公園の使い方について、PTAから家庭に向けてお知らせを配るなど地域や子どもの学校外での行動にも配慮した働きかけを行っている。また、柏尾小学校独自の郷土資料室を開設し、地域、PTA、子どもたちが学び、交流できる環境を大切にして活動に取り組んでいる。
2	横浜市立左近山 <small>さこんやま</small> 小学校PTA	スクールゾーン対策協議会で注意が必要な場所を定め、全保護者が交代で旗振り活動を行い、子どもの安全・安心な街づくりに寄与しており、実施後の「実施報告書」の感想を掲示している。また、配付物は読みやすさを重視するとともに、内容にも力を入れている。常に保護者の声を聞き取り、その意見を会員全員と共有することで好循環が生まれ、PTA活動のPR、人材確保につながっている。
3	横浜市立東高等 <small>ひがし</small> 学校PTA	成人教育委員会の活動で、NPO法人を通してバングラデシュやネパールの女性たちによる手作りを仕入れ、文化祭で販売するなど、子どもや保護者に対して身近なところで女性の経済的自立の支援のための取り組みができることを周知し、持続可能な社会の創り手を育む教育活動に寄与した。
4	横浜市立浦島丘 <small>うらしまおか</small> 中学校PTA	積極的にPTA活動のスリム化を図っており、保護者へ参加の依頼について、当番制からボランティア制に変更し、自主的な活動に移行させたことで、保護者自身が明るく前向きな気持ちで参加できるようになっている。特に「朝の一声運動」では、保護者の前向きな気持ちが、子どもたちに伝わることで、良い影響が出ている。
5	横浜市立川井 <small>かわい</small> 小学校PTA	保護者向けAED講習会を開催し、会員の学びと地域との交流の場となった。さらに、講師の地域消防団と様々な意見交換を行うことで社会活動に対する意識の向上に繋がった。また、地域学校協働活動の一環として、地域・PTAの有志による自然学習イベントを開催し、ゴミ拾いも行うことで、保護者同士の親睦を深めた。地域で子どもを育てる機運が高まり、地域学校協働活動本部立ち上げに繋がった。
6	横浜市立桂台 <small>かつらだい</small> 中学校PTA	常時、質問や意見を受け付けている。子どもと保護者が疑問や不安を解消できるよう、PTAの配付物にはPTAのメールアドレスを記載し、校長への相談や働きかけができる環境づくりがされている。また、入学予定の児童や保護者に対する、相談の場として懇談会や学校見学会を開催し、細やかな対応を行っている。
7	横浜市立倉田 <small>くらた</small> 小学校PTA	地域学校協働活動では、地区連合会のイベントにPTAが実行委員会として参加し、地域と子どもの協働イベントの中でつなぐ役割を果たした。また、PTA主催のピンクシャツデー（いじめ反対の意思を表すワールドアクション）では、子どもにはいじめをしないための行動を自発的に考えることを促し、教員や保護者も含めていじめに対する意識の共有や人権意識の向上に寄与した。
8	横浜市立二谷 <small>ふたつや</small> 小学校PTA	登下校の見守りでは、保護者だけでは対応しきれない部分を地域住民が協力しており、地域が子どもたちを見守る体制が構築されていることで、子どもたちの安心安全につながっている。また、積極的に広報紙を作成しており、在校生の各家庭はもちろん、警察や自治会にも送り、地域に向けて活動を発信している。
9	横浜市立善部 <small>ぜんぶ</small> 小学校PTA	働いている保護者が増えている現状を踏まえ、年間を通じ「サポーター制度」を導入し、活動を選択制とすることで、保護者が各自の可能な範囲で参加できるようになり、持続可能なPTA運営につながっている。また、地域の安全ボランティア会と連携協力している登校時の見守りは、安全ボランティア会が発足してから今年度までの17年間、校区内において無事故という大きな成果を上げている。
10	横浜市立東俣野 <small>ひがしまの</small> 特別支援学校PTA	日頃から、会員の相互の親睦、地域との連携を目的に研修会、余暇活動、親睦活動、広報活動等、多彩な活動を展開している。特に令和4年度には保護者全員にアンケートを行い、PTA活動の見直しに取り組んだ。コロナ禍で見えた保護者同士のつながりの大切さや、仕事や子どもに割く時間が多い保護者にとってPTA活動への参加が負担にならない組織の形を話し合った。
11	川崎市立高津 <small>たかつ</small> 小学校PTA	令和4年度から、PTA活動を「できるときにできる人ができることをする」保護者サポーター制へとシフトし、会員からは好意的な意見が多く大変好評を得ている。また、24年目となるサマースクールを開催するなど、継続的に活動を行い大きな成果を上げている。
12	川崎市立宮崎台 <small>みやざきだい</small> 小学校父母と先生の会	教職員及び保護者と連携し、時代に合ったPTA活動に変化を続けており、活動内容を整理することで会費の引き下げや新たな活動の開始など、効率化に取り組んでいる。また、地域住民との連携を強化することで地域に開かれた学校づくりもサポートしている。
13	川崎市立登戸 <small>のぼりと</small> 小学校PTA	働く保護者も主体的に参加できるよう、デジタル技術を活用したPTA活動のスリム化を図り、いつでもどこでも誰でもできる活動としてYouTube配信を取り入れるなど、総会での保護者の意見を積極的に取り入れながら活動の活発化に大きな成果を上げている。
14	相模原市立大野北 <small>おおのきた</small> 小学校PTA	PTAが保護者や地域、企業の方々に呼びかけてベルマークを集める活動を行っており、学校の図書の本の充実に役立てられている。また、校内清掃活動で学校の掃除用具の点検をPTAが行うことで、学校の清潔感が保たれている。さらに、傘の貸し出しや管理活動も行うなど、子どもたちの環境整備に大きな成果を上げている。

令和5年度優良PTA神奈川県教育委員会表彰 受賞団体「PTAの取組」

15	相模原市立くぬぎ台 <small>だい</small> 小学校 PTA	PTA事業として「くぬぎ台小学校親子鉄道安全教室」を実施した。学区に小田急線東林間駅があり、多くの児童が通学や日常生活の中で踏切を渡ったり、電車を移動手段として利用したりするため、児童とその家族を対象に鉄道の安全を学ぶことを主な目的として計画した。当日は、教職員も合わせ、200名以上の参加があり、大変好評を得た。
16	相模原市立串川 <small>くしかわ</small> 小学校PTA	通学路の危険箇所や横断歩道の横断旗の状況などを進んで確認したり、古い横断旗を交換したりするなど、主体的に取り組む姿が多く見られる。また、これからのPTA活動でできることやこれまでの活動の見直し等について活発に話し合うなど、常に「子どもたちのために」という姿勢で取り組む姿が成果を上げている。
17	相模原市立相原 <small>あいはら</small> 中学校PTA	コロナ禍、新しい生活様式や教職員の働き方改革への対応として、運営委員会・本部役員会では、必要に応じ会議の回数を減らしたり、令和4年度よりオンラインでの会議を実施したりするなど、参加しやすい環境づくりや効果的な運営が行われるように工夫し、大変好評を得ている。
18	横須賀市立追浜 <small>おっばま</small> 小学校PTA	子どもたちが明るく前向きに学校生活を送ることができることを願って、学校と協力して、児童用昇降口の壁面をペンキで塗り、明るくきれいにした。保護者と子どもたちにアンケートを実施して給食のデザートとしてアイスクリームを提供した。保護者と子どもたちのニーズに即した活動を進めていることにより、今後の持続可能な活動の方向性も示された。
19	横須賀市立高坂 <small>こうざか</small> 小学校 P・T・A	子どもたちが読書に関心を持つよう、図書ボランティアが古い本の修繕や春夏秋冬を表す装飾など学校図書館の環境整備を行い、図書館利用が増えた。2年ぶりにベルマーク活動を再開し、運動会用のスピーカーの購入につなげた。高坂小見守り隊として、児童の安全のために積極的に取り組んだ。学年委員は児童や教諭にアンケートを行い、保護者にも楽しめる新聞を作成し、好評を得た。
20	横須賀市立大矢部 <small>おおよべ</small> 中学校PTA	適切な組織が構成され、保護者と教職員の協力が円滑に行われる中、PTA活動に参加しやすい環境作りや効果的な運営が行われている。会員それぞれの状況を考慮し、幅広い意見を聴取するなど会員の総意を反映した運営が行われ、毎月のPTA運営委員会で見守りや改善点を集め、コロナ禍においてもPTA行事や役員運営について考え、常にPTA活動を持続可能なものにするための工夫をした。
21	鎌倉市立稲村ケ崎 <small>いなむらがさき</small> 小学校PTA	学校の特色である米作りの授業に、地域の方々と共にPTAも積極的に協力している。コロナ禍以前は、PTA主催の餅つき大会が盛大に行われていたが、昨年度は、地域の米店に精米をお願いし、業者に依頼しておかきを作り、地域の方々、通学路で見守りをお願いしている方々に配布した。このように、学校、PTA、地域の果たす役割について共に考え、よりよい教育環境づくりを進めている。
22	藤沢市立滝の沢 <small>たまたさわ</small> 中学校けやきの会	アドバイザーという制度をつくり、本部役員経験者が翌年以降の本部役員の活動を支え、一緒に活動に取り組むことで、役員の負担軽減やスムーズな引継ぎにつながっている。また、青少年育成協力会と連携して学区のパトロールを行い、子どもたちの安全を守っている。三者連携ふじさわ（湘南大庭子どもサポート会議）では、代表が出席し、近隣の小・中・高校との連携を密にして活動を行っている。
23	茅ヶ崎市立緑が浜 <small>みどりがま</small> 小学校P.G.T.	会員の枠を保護者だけでなく祖父母にまで広げ、地域全体で子どもたちの育ちを支える理念で活動が行われている。組織をスリム化し、ボランティア制を取り入れ、会員の積極的なボランティア精神により、大変活発に活動が行われている。自治会などの地域団体との連携が密に図られており、学校・地域それぞれの活動に互いが関わり合う関係性ができている。
24	三浦市立初声 <small>はつせ</small> 中学校保護者と教職員の会（PTA）	どの地区からもPTA活動に参画できるように、小字から地区委員を選出し、常置委員会の委員を選考している。そして、常置委員会においてはPTA活動を維持するためにボランティア制を導入している。また、令和3年度に発足した「地域とともにある学校づくり協議会」に参画をし、三浦市内の先進的なモデルとして議論を重ねている。
25	厚木市立鳶尾 <small>とびお</small> 小学校PTA （保護者と先生の会）	「PTAふれあい草むしり」を企画し、学区の自治会に事前協力を得て実施した。当日はPTAの呼びかけにより100名程度の参加があった。地域と教職員が一体となって事業を展開するために、PTAが人と人をつなぐ役割を果たしている。オアシス運動（あいさつ運動）では、学年・学級委員を中心に児童の様子を地域の方々にも見てもらうとともに参加者に交流の場を提供する等の働きかけを行った。
26	厚木市立林 <small>はやし</small> 中学校PTA	職場体験学習では、学校のニーズに応じて、リスト作成や体験先事業所との調整を行った。また、職業講話では、講師の依頼やPTA役員による講話の実施など、効果的な学習の支援を行った。コロナ禍で使わなかった予算の使い方について「Hayashi Dream Project」と銘打って生徒のアイデアを募集する等、広く意見を求めて活動に繋げ、成果を上げた。
27	大和市立光丘 <small>ひかりが丘</small> 中学校PTA	PTAや美化ボランティアを中心として、校内美化活動を積極的に実施した。コロナ禍により多くの活動が中止や規模縮小となったが、踏襲で実施してきた活動を見直す良い機会と捉え、運営委員会の内容精査を通して、会議時間の短縮および保護者参加の負担軽減などの成果を上げることができた。委員会の統廃合や編成人数の再考なども実施した。
28	綾瀬市立土棚 <small>つちだな</small> 小学校PTA	感染防止対策を工夫しながら、運営委員会を集合で開催し、飲食を伴わない形のイベント「土の子わくわく体験フェスティバル」を一から立ち上げ、地域や学区の中学校の協力も得て開催を実現させた。広報紙を地域で回覧し、PTA活動についての情報発信を行うことで、会員がPTA活動を理解し、参加意欲を高めるとともに、地域の方々にPTA活動への理解と協力を得ることに役立っている。

令和5年度優良PTA神奈川県教育委員会表彰 受賞団体「PTAの取組」

29	平塚市立土屋小学校保護者と 教職員の会	「全員が幸せになれる学校」の目標実現を目指して、PTA・教職員・地域が密に連絡を取り合い共に活動している。神奈川県では初の認証校となった「セーフティプロモーションスクール（SPS）」では、PTAがその一役を担い、校内外の安全点検や登校指導等、学校内外の安全活動の推進を行った。
30	平塚市立八幡小学校PTA	地域と学校が連携してコミュニケーションを深める場として、地域関係諸団体と調整しながら「やわたふれあいフェスティバル」を開催した。久しくできていなかった子どもたちと地域が直接ふれあう場となり、子どもたちと地域の絆を改めて深め、子どもたちの生きる力を育む環境づくりに努めた。
31	秦野市立北小学校PTA	「誰かのためにできることを無理なく楽しく～世界につながる未来のために～」をスローガンに、コロナ禍においても子どもたちが喜ぶ活動を実施しようと工夫して取り組んだ。PTA環境エコ委員会のアルミ缶資源回収事業は、令和4年度全国で優秀校に選出されるなど、大きな成果となった。また、回収事業を通じて児童の環境委員会と連携を深めたことで、環境教育のさらなる充実に貢献した。
32	二宮町立山西小学校PTA	「感染症対策をしつつ可能な限り活動を正常化する」を目標に掲げ活動に取り組んだ。役員同士の情報共有や意見交換を建設的に行い、活動に反映し見直しを図ることで新たな体制を構築した。キャンプファイヤー事業や地域人材を活用した授業等を通じて学校と地域のつながりが深まるよう橋渡しをすることにより、「地域全体で子どもを育てる」という気運の向上に大きく寄与している。
33	小田原市立矢作小学校保護者と 教師の会（PTA）	交通安全の会議に自治会の登下校見守りの方々の参加を呼びかけ連携を強化する等、地域ぐるみの交通安全の取組は、会員や自治会から高い評価を得ている。また、子どもたちの新たな学習方法に対応した「会員向けタブレット講習会」や、子どもたちを励ます「打ち上げ花火」など、会員のニーズに対応しながら活動し、コロナ禍においても大きな成果をあげている。
34	開成町立開成南小学校PTA	参加しやすいPTA活動とするため、組織改編の実施や会議の開催方法をオンラインとの併用で実施するなど環境整備を行った。また、役員、保護者、教師の負担を軽減するため、これまで実施してきた「ふれあいデー」と「クリーンデー」の2つの事業を「ふれあいクリーンデー」に統合し、清掃活動の後にレクリエーションイベントを実施した。参加者が300人を超えるなど盛況であった。
35	湯河原町立吉浜小学校PTA （保護者と教職員の会）	家庭教育学級の内容や講師に関して要望を取り入れたり、反省会やアンケートでの意見を年間活動計画に反映させたりするなど、会員の声を大切に活動を行っている。また、登校時の見守り活動に力を入れ、さらに自治会、警察署生活安全課と共に「安全対策委員会」を開催し、学区の危険箇所、交通安全について意見交換をするなど、学校と地域との連携強化を図っている。
36	神奈川県立伊勢原高等学校 PTA	「私たちができるSDGs」として、PTAが生徒会と協働して体育館履きや文房具をカンボジアに送る活動を展開し、学校内にSDGs活動の意識付けを行うことができた。そうした活動内容が評価され、高等学校PTA連合会関東大会で事例発表を行った。
37	神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校 PTA	コロナ禍で停滞していたPTA活動を、オンラインツールを導入して、新しい活動の在り方へと発展させた。オンライン会議ツール等を活用することで、さまざまな理由で時間を取りにくい保護者が参加するハードルを下げ、活動の再活性化につなげることができた。併せて、総会資料のペーパーレス化を図るなど、これからの社会を見据えた活動を展開している。
38	神奈川県立橋本高等学校PTA	保護者・生徒・教職員が協力して、文化祭フィナーレで花火を打ち上げるといった新しい行事をつくり上げた。コロナ禍で各種行事が中止や縮小される中で3年間の高校生活を送った生徒から、PTA（保護者）に協力の依頼があり、保護者であるからこそできる役割を担って、行事を成功に導いた。生徒の願いに保護者が応え、教職員に働きかけて夜空に花を咲かせたすばらしい活動である。
39	神奈川県立釜利谷高等学校 PTA	コロナ禍でのPTA活動を工夫し、クラウドを活用した情報の体系化と共有に着手し、PTA活動の大幅な効率化を実現した。紙ベース等で点在している各種情報を集約することで、役員・委員・教職員は時間や場所を気にすることなく情報の閲覧や編集を行うことができるようになり、ICTを活用してPTA活動に参加しやすい環境をつくり上げた。
40	筑波大学附属久里浜特別支援 学校PTA	小規模校の特性を生かして、会員同士の連携を密に図ることを大事に活動を行っている。学習会は障害特性の理解や日常生活の困りごとを解消するなど、大変好評を得ている。総会の出席率も高く、対面総会時では8割ほどの世帯が出席し、残りの世帯や職員からはほぼ全員委任状を提出し、関心の高さが伺える。現在は書面総会だが、投票率はほぼ100%であり、全員で参加している会として成果を上げている。

令和5年度優良PTA神奈川県教育委員会表彰は、令和4年度の活動内容をもとにして、各市町村教育委員会等から推薦していただいた候補団体について、県の教育委員会で審査を行い受賞決定したものです。